

## 議事概要

### 食育シンポジウム「安全で豊かな食生活を求めて」

1. 日 時：平成21年1月17日 13:30～16:00
2. 場 所：静岡県男女共同参画センター あざれあ（静岡市葵区）
3. 主 催：静岡農政事務所 内閣府食品安全委員会
4. 共 催：静岡県 静岡市（後援：静岡新聞社 SBS）
5. 参加者：公募による一般参加者90名



#### 6. 基調講演 「食品の安全性について」

内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション官 小平均氏

##### ●食品安全委員会の仕事

食品安全委員会が何をするのかというと、「食品のリスクを科学的な知見から中立公正に評価する」事です。7人の委員がいて、その委員の下に14の専門調査会があり、それぞれ農薬、添加物、化学物質などの審査をするチームに分かれて評価を下します。そのメンバーは、学識経験者、研究機関の専門家205名の方にお願ひしています。毎週委員会を開催していて、これは一般の方にも公開されています。

##### ●リスクを分析するという考え方

どんな食品にもリスクがあるという前提で、これを科学的に評価して、上手く管理していこう、健康に悪影響が出ないようにしていこう、あるいは許容できる程度で抑えていこう、ということです。それがリスクの評価を行うという事と、リスクの管理、コミュニケーションと、その3つの要素がこのリスク分析の中にあると考えられます。

リスク管理とは、農薬を例にすれば、農薬の使用基準、残留基準を決めてそれが守られているかどうかチェックしていくという事になります。この管理のところが上手くいっているかをチェックしながら、その過程を関係者と一緒に情報を共有していこう、というのがリスクコミュニケーションです。人と人が意見を交換しながら仕組

みを回していこうという考え方です。

### ●農薬のリスク評価

農薬について、どういう風にリスクの評価をしているを例にお話します。実は農薬っていうのは「薬」ですけども、化学物質です。動物実験をして、どこまでの量だったら影響が無いのかを推定します。一つの農薬について、一日摂取許容量（ADI）というのがあります。でも、農薬というものは、いくつかの作物に使いますよね。例えば、みかん、米、小麦と同じ農薬を使った場合、それらを足し合わせてもこの1日摂取許容量に収まらないといけません。そのために、我々が平均的に1日にこういうものを、どれだけ食べているかというデータを用いたりして、この1日摂取許容量の中に収まるように割り振ります。

一方で、この残留基準値にちゃんと当てはまるように、農薬には使用基準というのが決められていて、どの作物に使えるか、使用量、使用期限、総使用回数、使い方などが農薬の入れ物のところに書いてあります。

厚生労働省は、市場に流通している食品を購入して、それを調理した上で1日摂取許容量（ADI）の中に食品の残留農薬が収まっているかも分析しています。対象となっている農薬はいろんな作物に使われていますから、それらを全部合わせてもちゃんと1日摂取許容量（ADI）の中に収まっているかどうかの計算をします。16年度の調査では、検出された残留農薬は1日摂取許容量に対して、1%未満の数値であったという事です。残留農薬のレベルは大変低いという結果です。

### ●食品のリスクと他のリスク

人口10万人あたりの年間死亡者数というのをリスクの物差しとして考えてみると、がんでは年間250人、自殺は24人、交通事故は9人、落雷は0.002人というデータがあります。最近のような対策が取られる前のBSEでも0.00075～0.000083人でして、死亡者数で換算すると、食のリスクというのは大変低いリスクだといえます。



### ●知る努力

私たちに出来る事は、身の回りにある食品のリスクを考える、そしてバランスの良い食生活、「何かを食べればこれが良くなる」という食べ物は無いと思います。ですからバランスよく食べる。何かの栄養素とか、これを食べれば健康に良いんだとか、安易に信じない。あるいは生産の実態を知るような努力をするといった事が重要だと思います。

## 7. パネルディスカッション 「安全で豊かな食生活を求めて」

### コーディネーター

東海大学短期大学部 準教授 末永美雪 氏

### パネリスト

しずおか市消費者協会 会長 桜井典子 氏

静岡県認定農業者協会 会長 青木嘉孝 氏

㈱知久 代表取締役社長 知久利克 氏

静岡県 県民生活室長 森 雅代 氏

食品安全委員会 小平 均 氏

### 末永氏あいさつ（抜粋）

今、食の問題が大変多いですけれども、我が国の大きな特徴としまして、食料自給率が約40%と大変低いということがあります。当然、外国から食料を輸入しなければならないという事です。ここでの食の安全安心を担っているのは誰だったのか。行政、専門家の方々にお任せしている部分があるんじゃないかと思うんです。平成19年、食の偽装問題が相次いで表面化しました。そして平成20年は、更に深く広がっていった。どうして次から次へと問題が出てくるのかというのは素朴な疑問ですよね。行政は監視体制・罰則強化の問題を更に進めていただきたいと思うわけです。一方で企業も、モラルが欠如していて、巧妙な手口で不正を行う。ところが責任はそれだけじゃない。問題が多発する原因の一部は消費者にもあるんじゃないかなと思うんです。消費者のブランド志向とかですね。テレビ番組で「これはいい」と言うと、その日の夕方にはスーパーの店頭からその商品がなくなってしまう。科学的根拠による視点が育っていないんですね。

今回は、食育について、行政は何をしたらいいのか、企業は、教育機関は、生産者は、そして今、この会場にいる皆様方は何をしたらいいのか。是非、そういった視線で見ただけであれば幸いです。

### 桜井氏あいさつ（抜粋）

しずおか市消費者協会は市内の消費者団体と個人合わせて300人の会員がいて、生活者の視点を大切に活動をしています。食については、生産者、流通・販売業者、行政関係者との意見交換会や、地元食材を応援する取り組みを行っています。

現在の食の安全については、輸入食品は危険だから国産を買おうというのは、ちょっと短絡的すぎるんじゃないかという意見もあるわけですが、国産農産物への消費者の支持と信頼を今こそ真剣に受け止めていただきたいと思います。消費者自らも学び選び、賢い買い物をしましょうという事を提案したいと思います。賢い消費者と賢い生産者この2つのバランスが高い所でとれるよう、お互い努力していきましょう。

### 青木氏あいさつ（抜粋）

今は農産物が当たり前のように何でもありますが、それが無くなれば安全・安心という事はあつという間に吹き飛んでしまう危険性があります。重要なのは自給率を上

げなければいけないということ。そして、農薬被害を起こさないような薬の使い方。無農薬だから安全というのは完璧な考え方ではないと思います。農薬にはすごくたくさん種類があり、それを判断して、使うべきか考える。これが科学的なやり方だと思います。こういう事を言うと、昔だったら、無農薬の方がいいとか、農薬を擁護しているのかと言われました。ですからこういう事をこういう所で言えるようになったというのは、安全・安心というものが、また一歩前進したのかなと思います。

機械に品質の悪いガソリンやオイルを入れたら、機械の性能を出せないし、壊れるかもしれない。あなたが食べていることも基本は同じことだと。そういう事をわかりやすく子供に伝えるには、例えば食事バランスガイドのようなテクニックが必要なんじゃないかと感じています。

### 知久氏あいさつ（抜粋）

私の会社では、お弁当やお総菜を製造・直販しています。材料を調達するために、5年前から最近農業を始めまして、食材、加工、流通と、すべて自社で行っております。農業をやるようになってから、いろんな事がわかってきました。その中で、農業人口が減っている一番の原因や、自給率の問題も



結局、農家の収入が一般的な生活者よりも少ないからであると。どうして少ないのかというと、計画生産の問題、流通の問題があります。業者との契約栽培のような形なら農家の経営も成り立つんじゃないかと思います。農家の方々がチームを組んで、大手スーパーが扱わないような、消費者が望んでいる作物を作って、安定供給が出来れば、すごく将来性があるのではないかと思います。

私はよく旅行に出かけますが、その土地土地にあったもの、地域の文化、そういうものを、きちっと残していかなければならないと、これからの人生・生活がつまらなくなってしまうなあ、と常々思っております。

### 森氏あいさつ（抜粋）

静岡県では、安全で豊かな食生活を目指すための施策や事業の大元になる「静岡県総合計画」があり、第3章の「安全で個性豊かな消費生活を確保する取組の推進」の中で「食の安全を確保する取組の推進」を謳っています。また、平成14年度から「しずおか食の安全推進委員会」を設置し、関係部局が連携して「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン」を策定しました。関係部局が連携して様々な施策を展開し、県を挙げて食の安全・安心に取り組んでいます。

今回のシンポジウムは食育がテーマですが、静岡県の食育のテーマは「食を通して人をはぐくむ」という事です。「食を楽しみ、食を知り、食を創る。」これによって望ましい食生活を実践する力や、食に関わる様々な活動への理解や感謝の念を育てる取組を進めています。

食の安全・安心は消費者の皆さん、事業者の皆さん、そして行政が協働して、それぞれの立場で真剣に行動する事によってのみ守っていけると思います。みなさんと一緒にがんばっていきたいと思います。

#### 小平氏あいさつ（抜粋）

今、皆さんのお話を聞いていて、やっぱり「食」というのは、作る方、流通させる方から食べる方まで様々な方がいるので、いろいろな場面を通じてもっと意思疎通を図っていく事が重要なんだなと感じました。

今日この会場にいる皆さんは食に対する関心がすごく高い方だと思いますが、世の中には全然関心のない方も多いです。そんな方々に対しても、周りの方々から「こんな事があるよ」と、地域でお互いに話し合っていくような雰囲気があれば、もう少し広がりが出るのではないかと思います。

**末永**：こちらに会場の皆さんからの中間アンケートでのご質問が寄せられておりますので、それに対してそれぞれの先生方のご専門の分野の立場で少し深めたお話をいただいで、皆さんと意思の疎通を図れば良いなと思っております。

#### ●ウソはばれる

**末永**：まず、「表示を信用出来ないし、何を信じて良いかわからない」というご意見ですが、具体的にここをこうすればいいと、消費者としてとれる方法のようなものを教えていただきたいんですが、小平先生いかがでしょうか？ かみ砕いてお願いします（笑）。

**小平**：表示を見て信頼できないとなると難しいと思います。ただ、厚生労働省とか農林水産省やいろいろな自治体が、それぞれの取り組みを行っています。例えばウォッチャー制度とか。また、商品を作っている方が、みずから情報をオープンにする事を進めていけば、お互いに信頼度が上がるのかなと感じるんですが・・・

**森**：県民生活室は事業者に対して食品の表示適正化を指導をしています。その中で最近感じるのは、「ウソはばれるゾ」という事なんですね。表示の適正化を守るのは、皆さんにも関わるという事をご理解下さい。いろんな食品偽装を少ない人数で取り締まるのは大変難しいです。業界自身の自浄作用に期待するところもありますが、消費者の皆さんから県民生活センターや県民生活室にお電話いただいで、「不審なものがある」と伝えていただければ、情報が入りますので、その中で疑義があるというものは農政事務所や保健所と一緒に調査に行きます。

それと、現場にいる方からも内部情報が入ってきています。表示の適正化に関しては、私どもも厳しい態度で対応していきますので、皆さんの「みんなが目を光らせているよ」という状況が表示をさらに適正化させる事につながると思います。

**末永**：行政も対応しているという事で、問題が大きいですから、何か疑問を感じたら消費者の方から情報を寄せたりして、監視体制を自ら高めていくという対応が消費者にも求められているのではないかという事ですね。

### ●表示は信じられる？

末永：次に、これまた難しい質問ですが、「無農薬で育てられたお茶というのがあるんですけども、無農薬っていう言葉をどこまで信じたら良いんでしょうか？」・ ・ ・青木さんが詳しいですかね？

青木：私たち農家はJAS法をクリアするために勉強しています。世界的に有機栽培というものが確立されつつあるんですが、有機の基準というのはそれぞれ任意の団体によるものです。JAS法は細かく規制されていますが、普通の農薬でもちゃんと使えば安全ですから、日本のJAS法をクリアしているもの、また「特別栽培」といって農薬の使用量が通常の半分以下のもの、それらは限りなく安全だと思っています。

末永：ここで農政事務所さんから、少しレクチャーしていただくと助かります。

高橋（所長）：表示の問題でどこまで信用して良いかということ、小平さんのお話のとおり、安全プラス信頼っていうのが安心だと思います。「それでも信用できない」と言われれば、それはそれで自分で作るしかないんですが（会場笑）

梶原（消費・安全部長）：表示の話が出ていますが、私ども農政事務所にも30名程の食品Gメンがおります。私どもの方でも表示110番というのがあります。不審な事象がありましたらここにご連絡いただければ、調査が必要と判断したものは即座にGメンが調査をするという体制を整えております。

それから、有機の表示について、これは先ほどからお話がありますように、正式な有機食品の表示という意味で、有機JASマークが記載されているもので無い限り、有機食品の表示は出来ません。

末永：ただいまのお話、マークとか表示、これにきちんとした確信を持って、もしもそれに疑問がある場合には相談窓口へ。みなさんこれは良く頭に入れておいて下さい。

### ●子どもと食育

末永：もう少し話を進めさせていただきます。「食育は子どもから」という事で、何か具体的な取り組みはどうですか？

桜井：私たちしずおか市消費者協会会員の消費者団体の皆さんが行う取り組みや、食生活改善推進協議会でも、子どもさんを対象としたお料理づくり教室などの活動をしています。また、食育というと子どもを対象にするというのが多いですけども、これからの高齢化社会に向けて、お年寄りにも必要だと思います。

森：昨年5月の消費者月間で開催した「県民のつどい」では、「安心安全な選択は食育から」と題した講演会での、服部幸應先生のお話の中に、8つくらいまでが食育の基本ではないかというお話がありました。県の健康増進室では「食育は0歳児から始まる」と言っています。それは大人がしっかりしなければ、子どもにも正しい食育というものが伝わらないという事です。子どもを対象にといいますが、実はその親御さん達に関心を持ってもらうのが一番大事だと思います。また、子どもの頃の味覚というのは後々まで残りますから、小さいうちに本物の味、新鮮で体に良いもの、それを教えるというのは大切な事だと思います。

### ●企業の考えるこれから

末永：最後に知久さん、会社の企業努力について、知久さんの会社のように、利益追求プラスアルファの、社会に還元するというような、そういう動きはありますか？

知久：少ないと思います。というのも今、スーパーマーケットの競合がすごくて、スーパーに納品している業者がすごくたくさんあるわけですが、その人たちは常に値段で闘わされているんです。そういった厳しい経営環境の中で、少しでも何とかしようと思って、偽装の問題もそこから来ていると思うんです。今ちょうどアメリカ型の大量生産・大量消費の世の中が終わりを迎えつつあるのではないかと思うんですが、これから原点に戻る良い機会ではないかとも思っています。



末永：そうしますと・・・上手くまとめられないのですが、今まで大量生産・大量消費という波に乗って、少しでも安いものを作ろうっていう企業努力をしてきたんだけど、これからはそうじゃなくて、安全を売りに出来る商品が伸びるとお考えですか？

知久：そういう事でないが残っていけないと思うんです。

末永：そういう事でないが残っていけない社会を作っていかなければならないという事ですね。

## 8. 質疑応答及び総括

### ●質疑応答（抜粋）

Q（60代女性）：「子どもを生む前、妊娠中の女性への食育が足りないのでは無いかと思います。お母さんになる人への教育が悪いのか、親御さんの教育が悪いのか、インスタントの食品ばかり食べてるからなのか、そのあたりの食育の面がもっとしななければならないと思うんですが。」

A（末永氏）：食育は子ども達だけではなく、社会に出てしまった人に対しても大事だよという事ですよね。行政の方でもいろいろな所で呼びかけしてるんですね。実際今みなさんがここに来ているという事もその呼びかけに応じたからですが、問題はこういうところに出てこない人たちなんです。出てこれない、という人もいるでしょう。そういう人たちに呼びかける良い方策があるのかというと、マスメディアの力を借りなければならないだろうし、インターネットも良いでしょう。けれども、これといった決定打が無い、いろいろ必要なんです。これから作っていくんですね。誰が作るのか？  
という、行政だけじゃなく、みんなで作っていくんじゃないでしょうか。

Q：「中学・高校ではどうなんでしょうか？」

A：中学高校では食育がちゃんと入ってます。いったん社会に出てしまった後を心配されていると思うんですが、人生の場面場面でも、きちんと対応しなければならない

し、不足しているところは足していかなければならないという事じゃないでしょうか。

#### ●全体の総括（末永氏）

今日は会場の皆さんやパネリストの皆さんと、アンケートを交えて進めさせていただきましたが、今日の主なところは、食の安全・安心を含めた「食育」という幅広い事象を、どうやって進めていけば良いか？ という事だと思います。

自分自身の食と健康の管理能力を身につける事が大切なんです、その管理能力をつけるという事は、「やらされている」って意識させているようでは誰も取り組まないです。つまらない、難しい物であってはダメなんですね。自分からやりたくなるような、やると楽しい、やれば自分の身に帰ってくるもので無ければならないんですね。そのためには様々な方面からの働きかけや、新たな施策っていうのが必要になるんです。食育は大変広い内容を含んでいますけれども、皆さん方が自分の一番関心のある事や、自分が一番得意とする分野から食育に入って行けるんですね。自分が入っていける課題がどこかにあるんです。自分一人でなく、社会との接点の中でどうしたら良いかという事を、いろいろなところで知識として吸収する。それだけではなく、他者への働きかけも必要です。食育ボランティアになったりして、周りの人をぜひ助けていただきたいと思います。私たちが今生きている日本の社会では、食に関する新しい問題が次々に起こっています。これは私たち自身の問題です。みんなで協力して、一歩ずつ取り組む以外に王道など無いんです。是非とも食に関心を持っていただいて、今日のような呼びかけがあれば参加していただいて、自分自身の健康を自分で守る、そういった意識をあらたにしていただきたいと思います。

#### 9. 会場での感想

- ・小平氏の話が具体的でわかりやすく、ためになったと思う。
- ・食品の安全や食育など、自分で考える良いきっかけになった。
- ・現場で食に取り組む人たちの生の声を聞く事が出来て良かった。
- ・時間が足りず、深い話が聞けなかった。
- ・食育への取り組みについて、もう少し具体的な話を聞きたかった。